

# 口腔病理診断学特論

Advanced Course of Oral Diagnostic Pathology

## キーワード

- ① 病理診断
- ② 細胞診断
- ③ 唾液腺腫瘍
- ④ 自己免疫疾患
- ⑤ 線維増殖性病変

## 授業概要

口腔病理診断学では、診断に必要な基礎的な事項から応用までを教授する。特に、診断に必要な組織化学的染色概論、免疫組織化学的染色概論、最新の遺伝子解析により確定診断に必要な検索法を教授すると同時にWHO分類および各種取り扱い規約をテキストとして診断に必要な組織学的な事項を解説する。また、病理解剖や細胞診の理論についても講義し、歯科医療における病理診断学の意義と理論を身につけることを目的として開講する。

## 授業科目の学修目標

口腔病理診断の理論と実践を通じて口腔病変を俯瞰的に理解し、正しい診断能力を修得する。

## 授業計画

- ① 診断学に必要な組織学的な事項を教授する。 15コマ 槻木恵一
- ② 組織化学的染色、免疫組織化学的染色、最新の遺伝子解析の理論を教授する。 15コマ 猿田樹理

## 教科書および参考書

口腔病理アトラス 文光堂

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特になし

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 口腔病理診断の理論と実践を通じて口腔病変を俯瞰的に理解し、正しい診断能力を身につける。
- ② 組織化学的染色、免疫組織化学的染色、最新の遺伝子解析の理論を理解する。

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%

## 評価の要点

症例提示を10回行い、診断に対する考え方について口頭試問する。10回×10%=100%

## 理想的な達成レベルの目安

日本病理学会において症例提示を行えるだけの診断解釈能力